

News! the 世界遺産

第4回 世界遺産登録推進に向けての中学生作文コンクール

平成22年度も「鎌倉の世界遺産登録に向けての中学生作文コンクール」の作品募集が行われ、市内の公立私立中学校から夏休みの間に書かれた531通の力作が寄せられました。このコンクールは、鎌倉市青少年指導員連絡協議会と当推進協議会が主催、鎌倉市が共催、鎌倉ペンクラブ・鎌倉市教育委員会・鎌倉市立中学校長会が後援して開催されたものです。

2度の選考を経て全作品の中から最優秀賞1点と優秀賞3点、佳作7点が選ばれ、平成23年1月15日に鎌倉市議会本会議場で表彰式が行われました。

この席で選考委員長の三木卓さんから「531名もの中学生の皆さんが自分の居場所をしっかりと定めて、鎌倉の世界遺産登録というテーマに真っ正面から向き合って、それぞれの思いと考えを素晴らしい作文に仕上げた」と、応募者全員に向けて健闘を讃える言葉を頂きました。

この4年間に応募して下さった延べ2000名の皆さんに御礼申し上げるとともに、中学生の熱い思いを市民の皆さんにも共有していただきたいと思っています。

下記に最優秀作品をご紹介します。

「鎌倉の世界遺産登録について思うこと」

【最優秀賞】 横浜国立大学附属鎌倉中学校 3年 安部 萌

中学二年の夏、私はここ附属鎌倉中学校に転校してきた。歴史的にも観光地としても有名な鎌倉に、毎日心躍る思いで通学している。それまでは、蔵王山や白鷹山など周囲を美しい山々に囲まれた山形市という自然豊かな地に暮らしていたが、鎌倉の緑の深さ、自然の美しさ、豊かさには感動を覚えた。そして何よりも、ここには万人を受け入れてくれる寛容な温かさがある。

その鎌倉が、世界遺産登録を目指しているという。私はこれに賛成だ。

鎌倉は、鶴岡八幡宮を筆頭に、建長寺、円覚寺、長谷寺など歴史的建造物が多く残り、まさに日本の歴史が息づく街だ。これらの神社、仏閣は、日々観光客があふれているにもかかわらず、漂とした清らかな空気を漂わせている。建物だけではない。日本史の中でもこの地は多くのエピソードを残してきた。武士が初めて実権を握った時代は鎌倉に始まった。「平家物語」はまさにその鎌倉時代の平家と源氏の戦いを描いた超大作だ。この物語には日本人の感性が凝縮されていると私は思う。そんな歴史が実際に刻まれたこの地で、生きた学習ができていることは、私にとって素晴らしい財産となっていくだろう。

そのようなことが背景となっているのか、鎌倉という地には芸術家のインスピレーションをかき立てる力があるように思う。近代日本文学の巨匠、芥川龍之介、ノーベル文学賞受賞者の川端康成、井上ひさしをはじめ多くの文学者が鎌倉に暮らし活動してきた。「鎌倉文士」という言葉が存在するのはその為だろう。他にも漫画家の横山隆一や日本画家の平

山郁夫など芸術文化にたずさわる人々の名前が次々に思い浮かぶ。

パリ、ニューヨーク、フィレンツェなど世界には芸術家を惹きつける都市がいくつかある。例えばオーストリアのウィーンは音楽の都と言われるが、実は、ウィーンで生まれた作曲家は少ない。ウィーンには遙か昔から世界中から芸術家が集まっていたのだ。鎌倉も同じように芸術家を惹きつけ、創作意欲をふるいたたせる街なのだろう。

このように、鎌倉には「日本」をリアルに感じさせ、芸術文化を育む限らない魅力がある。だからこそ、私は鎌倉を世界遺産として登録するべきだと思う。

登録が実現すれば今以上に世界中の注目を浴び、観光客は増加し経済的利益は増すだろう。しかしそれに伴い、環境の悪化など多くの負の遺産も生まれるに違いない。しかしこのようなデメリットを恐れて登録への歩みを止めてはいけない。「日本人の感性」を世界に発信するためにも、また日本人自身が自らの感性を再認識するためにも、登録が実現することを望んでやまない。

今年三月、約十世紀の間鎌倉の歴史を静かに見守ってきた大銀杏が倒れた。復活を願う人々の祈りが届いたのか、八幡宮の境内では今、夏の日差しを浴び、大銀杏の命を引き継いだ若い芽が力強く枝を伸ばし、葉を茂らせている。この街も八幡宮の銀杏のように新たな一歩を踏み出すときではないだろうか。

鎌倉の世界遺産登録が、鎌倉、そして日本に新しい風を吹かせてくれることを、私は心から期待している。



Event! the 世界遺産

鎌倉世界遺産登録推進協議会主催・いざかまくらトラスト共催

五味文彦さん講演会「鎌倉の武家文化」

日本中世史の第一人者 五味文彦さんの講演。

鎌倉の世界遺産の登録にとって重要な段階を迎えた今、改めて武家文化と鎌倉との関わりを考えます。
武家文化が3つの段階を経て成長していった様相等についてお話しいたします。

講師：五味文彦さん（東京大学名誉教授 放送大学教授）

五味文彦さんは、東大出版会『UP』に連載されている「地域の力を歴史に探る」で、中世日本の各都市の様相を文献や発掘記録から解き明かしておられます。日本歴史を見渡す広い視野を『鎌倉』という1点に絞ってお話してくださる貴重な機会です。その眼差しは、中世の古都・鎌倉に培われた文化の比類ない価値に注がれます。

ところ 鎌倉生涯学習センター ホール と き 平成23年6月12日(日) 14:00～16:00 (13時30分受付開始)
定員 280名 参加費 無料 お申込 住所・氏名・電話番号・FAX番号・メールアドレスを明記し、
はがき・FAX・Eメールで下記の推進協議会事務局「6/12 講演会係」へ。定員になり次第締め切ります。

Watch! the 世界遺産

願いはひとつ! 文化財保護ポスター

神奈川県下の中学生を対象とする第39回文化財保護ポスター。「世界遺産登録をめざす武家の古都・鎌倉」部門には、県内50校から181作品の応募があり、最優秀賞1名・鎌倉世界遺産登録推進協議会会長賞2名・優秀賞5名が選ばれました。

写真は最優秀賞の岸春希さん(二宮町立二宮中学校

3年・受賞当時)の作品で、円応寺の重要文化財・木造閻魔王坐像を題材にしています。世界遺産登録もこのポスターも願いはひとつ、「身近な文化財の保護!」



EDITOR'S NOTE

鎌倉と縁の深い近藤誠一さんが文化庁長官に就任されましたので、推進協議会の有志で表敬訪問し、世界遺産登録の現状について伺いました。

石見銀山の世界遺産登録は、ユネスコ大使だった近藤長官の活躍なくしてはあり得なかったとよく言われます。鎌倉の世界遺産登録への現状と課題についても確かな示唆をいただきました。特に市民の役割については、その重要性和鎌倉市民の活動を高く評価されていました。登録後も含めて文化遺産を後世に残す責任を改めて自覚させられました。

腰越地区との意見交換会では従来の地区同様、地元文化財を守り地域のまちづくりを進めていくことは世界遺産登録につながるというところが確認できました。

中学生の作文やポスターのコンクールはレベルが高く、応募する生徒の数も多く、次代に継いでいく必要のある文化遺産にとっては心強い限りです。

編集後記

広報部会長 内海恒雄

【編集委員】大竹正芳 香山 隆 菊池威雄 草場圭三 小池潮里 佐藤江里子 高木規矩郎 都筑健一 長山元彦 能登原秀実 萩野なおみ 福澤健次 牧れい花 森まなみ 横岩宏志 【デザイン】澤田ながえ

❀ 鎌倉世界遺産登録インフォメーション&放送スケジュール ❀

- | | |
|---------|--|
| インターネット | ●鎌倉世界遺産登録推進協議会HP http://www.shonan-it.org/KWH-kyogikai/ |
| FMラジオ | ●鎌倉FM(82.8MHz)… 毎週日曜 12:00～12:30 「湘南鎌倉いまむかし」番組後半「鎌倉世界遺産への道」 |
| ケーブルテレビ | ●JCN 鎌倉… 毎週木曜 17:10～(当日再放送あり) 7Days デイリー 『一問一答! 鎌倉検定の道』 |

鎌倉世界遺産登録推進協議会
事務局

〒248-8686 鎌倉市御成町18-10 (鎌倉市世界遺産登録推進担当)

Tel.0467-61-3849 Fax.0467-23-1085 E-mail:sekaiisan@city.kamakura.kanagawa.jp